

味岡伸太郎展「えんちゅうのしぶんのいちのしかくちゅう 2004-2021」

# 素材とともに 「他」と出会う場



**枝** を四つに割り、内側だった面を外に  
向け、木串を使って組む。枝一本一  
本の表情は様々で、さらに付き枝のあるも  
のではそれらが交錯し、複雑な立体を生み  
出していきます。デザインや建築、陶芸な  
ど幅広い活動を展開する味岡伸太郎。彼が  
長年取り組んできた、割った枝を組むシ  
リーズの作品たちです。

作者は、対談集(※)の中で自分の制作  
について語る中で、「インスピレーション」  
と「イメージネーション」について触れてい  
ます。自らの意識が強く働く「発想」IIイ  
マジネーションよりも、素材やインスタ  
レーションする場所などの外的な要素によ  
るインスピレーションに導かれることで、  
「自我を排除」し、「無作為」での行為に至  
りたい、と語る作者。そのことで、自分の  
予測の枠を超え、素材の持つ無限の可能性  
に耳を傾けていく……。それは「素材を活  
かす」とは異なると作者は言います。素

材を活かすというのは、活かす主  
体II個人がいるということ。そう  
でない素材との出会い方につい  
て、この展示を通してあらためて  
考えさせられました。

(今井歴史「本誌編集部」)

※参考資料  
『自我と無作為とインスピレーションと  
美術と自然と人間の旅と継続』  
(春夏秋冬叢書刊)

味岡伸太郎展「えんちゅうのしぶんのいちのしかくちゅう 2004-2021」

RED AND BLUE GALLERY  
(東京・中央区新富)  
2021年9月11日(土)～10月9日(土)  
<https://www.redandblue.jp/>



四つ割りにした枝の内外を反転させて組んでいるのが分かる